

令和7年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立馬込小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・様々な道具や材料に触れることができる題材を増やし、経験や技能を育んだ。
- ・造形的視点を発達段階に沿って活動の要に組み込むことで、工夫して表す力を育んだ。
- ・思考を働かせる題材の工夫により、表したいことや主題を見付ける力を育んだ。

(2) 課題

- ・幅広い材料や用具の中から自分で考え選択して表現ができるようにしていく必要がある。
- ・鑑賞や対話を通して、思考を広げたり、深めたりすることができるようにしていく必要がある。
- ・教師の指導の工夫により、児童の創造しようとする態度をより一層支えていく必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

- ・低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
児童は、形や色、それらの組み合わせなどの感じについて気付いている。のりやはさみを十分に慣れ親しみ繰り返し扱っていくとともに、新たに使用するカッターも安全に使えるよう指導する。	児童は、好きな形や色を選ぶことができている。自分の表したいことに自信をもていない児童に寄り添い、表現のよさに気付けるように関わっていく。	児童は、楽しく表現することができる。自分の作品の面白さに気付いたり、楽しんだりできるように題材設定や導入を工夫していく。

- ・中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
児童は、形や色、それらの組み合わせなどの感じについて、工夫しながら表している。中学年になり使う用具や材料の幅も大きく広がるため、それらを適切に扱う力を身に付けさせていくとともに、道具を扱う機会を増やし、高学年につなげる。	児童は、題材で示されたお題を基に、自分なりに表したいことを見付けながら活動に取り組むことができている。対話を通したコミュニケーションや、身近な鑑賞題材を取り入れ、アイデアをさらに広げたり、深めたりすることができるよう指導を工夫する。	児童は、活動に対して粘り強く意欲的に取り組んでおり、楽しみながら表現ができている。多面的、多角的に経験を味わわせながら、表現することに自信をもって取り組めるような題材を設定し、児童の創造意欲を高めていきたい。

- ・高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
児童は、材料や用具に関する経験が身に付いており、経験や技能を総合的に生かしながら表現に活用している。どの材料や用具を使用するか自分で考え、選択しながら取り組む題材を設定する。また、高学年で身に付けさせたい造形的な要素を取り上げる場面を、題材の中に計画的に組み込むことで、造形的な工夫を込める力を育んでいく。	児童は、材料の特徴や偶然の表現から臨機応変に発想を生み出すことができている。児童が発想を掻き立てられるような鑑賞題材や、鑑賞のタイミングを工夫する。また、教師が寄り添い対話していくことで、発想のよさや工夫に対する児童自身の認知を確立していくことができるように、価値付けを行っていくようにする。	児童は、自分の表現に対して、主体的に、自信をもって取り組むことができている。一方で、児童によっては題材を淡々とこなし、粘り強さや工夫が足りないと感じる場面もある。達成感のある題材や、思考を深めていく方向性をもった題材を設定し、創造力を高めながら最後まで粘り強く作品に取り組めるようにしていく。

